

## 企画展 品川用水

期間	令和4年2月5日(土)～3月13日(日) 32日間				
会場	第二展示室・ロビー・小講堂				
有料観覧者	一般 1,599	小中 65	一般団体 0	小中団体 0	有料計 1,664
無料観覧者	区関係 70	区内小中 254	招待 18	高齢者 778	無料計 1,120
					総計 2,784

### 〔開催趣旨〕

江戸時代の品川区域は、ほとんどが農耕地帯だった。しかし、耕地は決して豊かではなかった。とくに水の便が悪く、湧水や雨水を蓄えた溜池を利用して耕作を行っていたため、しばしば干害に悩まされていた。

そのため、品川区域の村々は、幕府に対して灌漑用水の開削についての嘆願を長く続けてきた。寛文7年(1667)になり、開削の願いが叶い、幕府から工事の許可が出された。この工事でできたのが品川用水である。玉川上水から現在の武蔵野市で分水し、品川区域まで、延長約30kmに及ぶ用水は、多くの恩恵をもたらすとともに、様々な問題をももたらした。

本展では、品川用水の誕生から終焉まで、品川区域の村々にどのような影響をもたらしたのかを紹介した。

### 〔展示概要〕

第1章 品川用水の誕生

第2章 苦勞する維持管理

第3章 品川の農業と用水

第4章 品川用水の終焉

コラム 三田用水 ―品川の田畑を潤したもう一つの用水―



### 〔記念イベント〕

イベント名	日時	講師	会場	参加人数
学芸員による展示解説	①2月13日(日)	鈴木三美子 (品川歴史館学芸員)	講堂	①27名
	②2月26日(土)			②50名
	③3月13日(日)			③57名
	時間はいずれも 15:00～15:30			延べ134名